



2024年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年6月7日
東

上場会社名 日本駐車場開発株式会社 上場取引所
コード番号 2353 URL http://www.n-p-d.co.jp
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 巽 一久
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 渥美 謙介 (TEL) 03-3218-1904
四半期報告書提出予定日 2024年6月14日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年7月期第3四半期の連結業績(2023年8月1日~2024年4月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2024年7月期第3四半期	25,098	0.1	5,378	0.7	5,442	1.8	3,495	△1.6
2023年7月期第3四半期	25,080	25.8	5,342	44.3	5,347	43.2	3,553	45.7

(注) 包括利益 2024年7月期第3四半期 4,571百万円(9.8%) 2023年7月期第3四半期 4,165百万円(51.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年7月期第3四半期	11.03	10.97
2023年7月期第3四半期	11.12	11.01

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2024年7月期第3四半期	40,157	16,964	34.4
2023年7月期	29,007	13,950	39.3

(参考) 自己資本 2024年7月期第3四半期 13,797百万円 2023年7月期 11,390百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年7月期	—	0.00	—	5.25	5.25
2024年7月期	—	0.00	—		
2024年7月期(予想)				5.50	5.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年7月期の連結業績予想(2023年8月1日~2024年7月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	33,000	3.6	7,000	12.9	6,900	10.9	4,800	8.9	15.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2024年7月期3Q	348,398,600株	2023年7月期	348,398,600株
2024年7月期3Q	31,033,441株	2023年7月期	31,730,220株
2024年7月期3Q	316,940,323株	2023年7月期3Q	319,551,123株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料10ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	10
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	10
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	11
(1) 四半期連結貸借対照表	11
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	13
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	15
(継続企業の前提に関する注記)	15
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	15
(セグメント情報等)	15
(重要な後発事象)	16

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、世界的な金融引き締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の経済に与える影響に注意が必要であるものの、雇用・所得環境が改善し緩やかな回復が続いております。

当社グループの駐車場事業に関連する不動産業界においては、高止まりしていた東京都の空室率が5%台まで回復を見せ、スキー場事業及びテーマパーク事業に関連するレジャー・観光業界においては、新型コロナウイルス感染症対策としての行動制限の緩和に伴う社会活動の正常化により、個人消費やインバウンド需要の回復が見られました。

このような事業環境の中、当社グループは「ハッピートライアングル：関わる人全てがハッピーなビジネスを」という企業理念のもと、駐車場事業(国内・海外)、スキー場事業、テーマパーク事業の3つの主力事業において、環境変化に応じた顧客ニーズを追求し、常に斬新で、かつ期待されるサービスや商品を提供する事により、事業の改善に取り組んでまいりました。

当第3四半期連結累計期間の各事業の概況は以下の通りであり、前期のその他事業における一過性の不動産売却による影響等があったものの、前年同期比で売上・営業利益・経常利益において前年を上回りました。

駐車場事業(売上、営業利益ともに過去最高)

- ・新規契約物件が順調に増加し、累計新規契約が100件となった(解約48件)。
- ・月極駐車場検索サイトの掲載物件数1位を達成し、駐車場問合せ数の増加とともに成約数が1.5倍に増加。
- ・インバウンド需要増加により、ラグジュアリーホテル向けのバレーサービスの需要が高まり、受託契約が増加。
- ・海外においても、新規契約物件が順調に増加。

スキー場事業(売上、営業利益ともに過去最高)

- ・グリーンシーズンは、継続投資してきた施設、新たにオープンした施設やイベントの連日開催で集客が進み、来場者数が過去最高となった。
- ・ウィンターシーズンは、インバウンド、国内需要ともに堅調。シーズン後半である3月のまとまった降雪により、来場者数が増加。さらに顧客単価は、リフト券の値上げ等により、過去最高の水準となる。

テーマパーク事業(売上、営業利益ともに前年対比で減少)

- ・遊園地事業は、新規アトラクションのオープンや、例年2月の閉園期間に遊園地を開園する等集客に注力するも、繁忙期であるお盆期間の台風上陸や酷暑等の影響もあり、来場者数は前年対比で減少。
- ・別荘および宿泊事業は、前期堅調であった不動産販売件数が減少。

その他事業(売上、営業利益ともに前年対比で減少)

- ・前期はロクヨン社の保有不動産売却により、一過性の売上・営業利益があったため、その他事業全体としては、前年対比で減少。
- ・その他の事業については、前年を超過。

売上高	25,098百万円(前年同期比0.1%増)
営業利益	5,378百万円(前年同期比0.7%増)
経常利益	5,442百万円(前年同期比1.8%増)
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,495百万円(前年同期比1.6%減)

セグメントの業績は次のとおりです。

各セグメントの業績数値にはセグメント間の内部取引高を含んでいます。

(駐車場事業)

国内駐車場事業においては、月極駐車場検索サイトの利便性を高め問合せ件数を増やすことや、オペレーター人員の増強および各問合せの対応状況の可視化により、ユーザーに最適な駐車場をマッチングするスピードとボリュームの向上に努めてきました。さらに、入手した大量の月極ユーザーの需要データを分析することで、分析結果に基づいたオーナーへの複合的運営提案による新規契約物件の受注に、前期より引き続き注力してきました。

当第3四半期連結累計期間においては、月極駐車場検索サイトの注力エリアを拡大したこと、また現地調査を強化することでサイト掲載物件の拡充に注力したことにより、サイト全体及び主要エリアの市区町村別において、掲載物件数1位を達成しました。掲載物件数が増加したことに伴い問合せも増加し、ユーザーからの累計問合せ数は、14.3万件超え(前年同期10.7万件)となりました。これに伴い、成約件数も増加し3月には月間1,000台の成約を達成し、当社が運営する直営物件でのユーザー成約も増加しております。

また、インバウンドや国内景気の回復に伴いホテル等の稼働が活況になる中で、ラグジュアリーホテルや百貨店のサービスアップやブランドアップのため、駐車場運営だけでなくエンタランスのドアサービスの受託や、バレーサービス導入等を積極的に提案したことで受注が増加しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における国内駐車場事業の新規契約物件数は100物件、解約物件数は48物件、前連結会計年度末から52物件の純増となり、国内の運営物件数は1,388物件、運営総台数は46,909台となりました。

海外駐車場事業においては、タイでは、当期より組織体制を変更し、新規物件の受託営業を増やすべく、ビルを多数所有する財閥トップへの営業を強化し提案数を増加させたことで、当第3四半期連結会計期間において、「相鉄グランドフレッサ バンコク」等、7物件、1,290台を新規オープンし、運営物件数が増加しました。当第3四半期末における海外の運営物件数は79物件、運営総台数は16,558台となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は12,704百万円(前年同期比9.5%増)、営業利益は3,048百万円(前年同期比6.7%増)となりました。

(スキー場事業)

スキー場事業のグリーンシーズンにおいては、大自然の眺望を望む展望テラスの建設やキャンプフィールドの展開等、地域の特性を活かした商品開発を継続し、一年を通じた営業体制を整えることで、ウィンターシーズンに業績が偏重する季節変動リスクの分散に取り組んできました。また、ウィンターシーズンにおいては、インバウンド集客や新たなチャネルであるノンスキーヤー向けの取り組みを重点的に行い、特にファミリーでスキー場へ遊びに行きやすい環境づくりを行うため、小学生及び未就学児のお子様を対象としたシーズン券が無料となる「NSDキッズプログラム」に取り組んできました。

当第3四半期連結累計期間のグリーンシーズンは、北アルプスの絶景を目下に解放感とスリルを味わえる超大型ブランコ「白馬ジャイアントスウィング」の新規オープンや、3年目を迎える竜王マウンテンリゾートの「ソラグランピングリゾート」が高い稼働率を維持し、索道以外の主力となる事業として業績に貢献しております。さらに、4月下旬のゴールデンウィーク前半も好調に推移し、当グリーンシーズンの来場者数は423千人(前年同期比12.5%増)と、昨年に続き過去最高を達成しました。

同連結累計期間のウィンターシーズンは、11月下旬の自然降雪および継続投資してきた人工降雪機を稼働させることにより、例年より早いオープンとなりましたが、それ以降気温が上昇し、全てのコースが滑走可能となったのは1月上旬となりました。2月以降も自然降雪は限定的であったものの、3月にまとまった降雪があったことから、HAKUBA VALLEY白馬八方尾根スキー場及びHAKUBAつがいけマウンテンリゾートでは、5月上旬までお客様に春スキーを楽しんでいただけました。そのような中、HAKUBA VALLEY白馬八方尾根スキー場「OAKLEY TERRACE」では毎週末音楽イベントを開催し、インバウンドの来場者数は304千人と、コロナ禍前の18-19シーズン(231千人)より32%上回る結果となりました。さらに雪景色を楽しめるHAKUBA VALLEY白馬岩岳スノーフィールドの「IWATAKE WHITE PARK」や、長野県初出店となる「Soup Stock Tokyo」のオープン等、スキーをしない観光目的のお客様にもお楽しみにいただける取り組みを行い、ノンスキーヤーの来場者数は22

千人(前年同期比51.9%増)と過去最高になりました。

これらの結果、当ウインターシーズンの来場者数は1,691千人(前年同期比11.8%増)となりました。また、リフト券を値上げし、さらに継続的な飲料メニューの改善や有名レストランとのコラボレーション、専用ラウンジが利用できるS-Class等の高付加価値化に努めたことで、顧客単価も過去最高の水準になりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は7,314百万円(前年同期比19.7%増)、営業利益は1,987百万円(前年同期比37.1%増)と、大幅に改善しました。

(テーマパーク事業)

テーマパーク事業においては、那須ハイランドパークは「わんこはかぞく」をコンセプトに、りんどう湖ファミリー牧場では「0歳から6歳のお子様ご家族が安心・安全に楽しめる公園」を目指し、安心して楽しめる空間づくりを進めるとともに、アトラクションの新規およびリニューアルオープン、新たなイベントの開催等による遊園地集客に取り組んできました。また、これらのオフィシャルホテルである宿泊施設「那須高原TOWAピュアコテージ」では、バリエーション豊富な新築別荘投資による宿泊部屋数の増強、レストランの新規オープンやリニューアルによる滞在時間の魅力創出に取り組んでおります。さらに、他企業と連携して立ち上げた一般社団法人ナスコンバレー協議会では、21世紀型社会に求められるソリューションを創出する場として、栃木県那須エリアの社会課題解決や関係人口の創出に取り組み、新たな客層の呼び込みにも注力しております。

当第3四半期連結累計期間において、那須ハイランドパークでは、つり上げ式タンドムコースター「バットフライヤー」や、レーザーアトラクション「恐竜研究所」等、2024年シーズンのオープンと共に、アトラクションを拡充しました。また、立体迷路リニューアルによるわんちゃん連れ専用レーンのオープンや、ドッグランの拡充等、わんちゃんと一緒に楽しめる施設も拡充し、犬種別オフ会も多数開催いたしました。りんどう湖ファミリー牧場では、4月に入園・入学される新1年生キャンペーンの提供を通じて、りんどう湖内限定のこども通貨「りんどる」をプレゼントし、お金の流れや仕組みを楽しく学んでいただく等、遊びの場だけでなく学びの場としての取り組みも行っております。さらに、暖冬により積雪が少なかったことから、例年は閉園期間となる2月において、週末に遊園地を開園する等の取り組みを実施しました。これらの取り組みを実施したものの、最繁忙期である8月の来場が減少した影響が大きく、当第3四半期累計期間の来場者数は608千人(前年同期比95.6%)となりました。

宿泊事業においては、第3四半期に新たにプライベートサウナ付貸別荘、災害時等においても活用できるトレーラーハウス、「ナスコンバレー」における実証実験プロジェクトの一環で新たに事業化されたオフグリッドグランピング「Miwatas NASU」等、多様なニーズにお応えする客室を増やしました。

これらの取り組みを進めた結果、宿泊数は31千泊(前年同期比11.0%増)となりました。一方で、別荘事業の不動産販売件数は減少しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は4,669百万円(前年同期比3.9%減)、営業利益は667百万円(前年同期比24.9%減)となりました。

NPDグループは、「社会課題を事業を通して解決する」ことを目指し、様々な取り組みを行っています。2022年5月には、グループの2030年カーボンニュートラルの実現を目指し、新会社「スマートグリーンエネルギー㈱」を立ち上げました。持続可能な経済社会の実現を目指し、2023年7月に1号案件である、那須ハイランドの別荘地の間伐材を活用した、地産地消の循環型バイオマス発電を開始しました。また、2017年より取り組んでいる保護犬の里親探しを行う「SOS活動」では、取り組み開始以来の累計里親譲渡数が197頭となりました。さらに子ども食堂は、JR東日本(東日本旅客鉄道㈱)との連携により、JR那須塩原駅高架下に新店を開業し、月間1,000食を超えるお食事を提供できるようになりました。グループ会社㈱ティー・シー・ケー・ワークショップによる英会話教室や、日本スキー場開発㈱と連携しスキー教室を開催する等、食事の提供だけでなく、教育や経験の機会の提供にも取り組んでおります。その他にも、SDGs活動を主体事業に組み込むことで、更なる社会貢献に取り組んでまいります。

《駐車場事業の地域別、事業別売上高》

単位：百万円

		東日本	関東	東海	近畿	西日本	国内計
2023年 4月末	直営	669	3,581	460	1,800	674	7,186
	マネジメント	137	1,140	175	368	127	1,949
	その他	62	555	30	350	100	1,100
	合計	868	5,277	666	2,520	903	10,236
2024年 4月末	直営	631	4,087	467	1,937	749	7,874
	マネジメント	139	1,275	186	365	134	2,101
	その他	53	663	42	390	131	1,282
	合計	824	6,026	697	2,693	1,015	11,257
前年 同期比	直営	94.5%	114.1%	101.5%	107.6%	111.1%	109.6%
	マネジメント	101.8%	111.8%	106.5%	99.1%	105.0%	107.8%
	その他	85.9%	119.4%	139.7%	111.2%	130.7%	116.5%
	合計	95.0%	114.2%	104.5%	106.9%	112.4%	110.0%

		タイ	韓国	海外計	総合計
2023年 4月末	直営	605	591	1,196	8,383
	マネジメント	63	27	90	2,040
	その他	75	—	75	1,176
	合計	744	619	1,363	11,599
2024年 4月末	直営	644	662	1,306	9,181
	マネジメント	59	13	73	2,174
	その他	65	—	65	1,347
	合計	770	675	1,446	12,704
前年 同期比	直営	106.5%	111.9%	109.2%	109.5%
	マネジメント	94.6%	50.3%	81.2%	106.6%
	その他	87.2%	—%	87.2%	114.6%
	合計	103.5%	109.2%	106.1%	109.5%

《駐車場事業の地域別物件数、台数及び契約率》

【月極専用直営物件】

		東日本	関東	東海	近畿	西日本	国内計
2023年 4月末	物件数(件)	95	595	59	243	110	1,102
	借上台数(台)	1,569	10,388	880	4,666	2,063	19,566
	貸付台数(台)	1,455	9,916	850	4,454	1,997	18,672
	契約率	92.7%	95.5%	96.6%	95.5%	96.8%	95.4%
2024年 4月末	物件数(件)	102	625	60	250	128	1,165
	借上台数(台)	1,787	11,015	948	4,662	2,456	20,868
	貸付台数(台)	1,624	10,230	856	4,430	2,342	19,482
	契約率	90.9%	92.9%	90.3%	95.0%	95.4%	93.4%
前年 同期比	物件数	107.4%	105.0%	101.7%	102.9%	116.4%	105.7%
	借上台数	113.9%	106.0%	107.7%	99.9%	119.0%	106.7%
	貸付台数	111.6%	103.2%	100.7%	99.5%	117.3%	104.3%

		タイ	韓国	海外計	総合計
2023年 4月末	物件数(件)	30	2	32	1,134
	借上台数(台)	1,251	138	1,389	20,955
	貸付台数(台)	1,210	138	1,348	20,020
	契約率	96.7%	100.0%	97.0%	95.5%
2024年 4月末	物件数(件)	36	2	38	1,203
	借上台数(台)	1,681	138	1,819	22,687
	貸付台数(台)	1,559	138	1,697	21,179
	契約率	92.7%	100.0%	93.3%	93.4%
前年 同期比	物件数	120.0%	100.0%	118.8%	106.1%
	借上台数	134.4%	100.0%	131.0%	108.3%
	貸付台数	128.8%	100.0%	125.9%	105.8%

【時間貸し併用直営物件】

		東日本	関東	東海	近畿	西日本	国内計
2023年 4月末	物件数(件)	19	42	13	32	10	116
	借上台数(台)	1,499	2,983	2,589	1,924	788	9,783
2024年 4月末	物件数(件)	18	44	13	33	13	121
	借上台数(台)	836	3,741	2,592	2,045	919	10,133
前年 同期比	物件数	94.7%	104.8%	100.0%	103.1%	130.0%	104.3%
	借上台数	55.8%	125.4%	100.1%	106.3%	116.6%	103.6%

		タイ	韓国	海外計	総合計
2023年 4月末	物件数(件)	15	11	26	142
	借上台数(台)	8,183	3,497	11,680	21,463
2024年 4月末	物件数(件)	15	17	32	153
	借上台数(台)	7,743	3,431	11,174	21,307
前年 同期比	物件数	100.0%	154.5%	123.1%	107.7%
	借上台数	94.6%	98.1%	95.7%	99.3%

【時間貸しマネジメント物件】

		東日本	関東	東海	近畿	西日本	国内計
2023年 4月末	物件数(件)	10	46	12	15	14	97
	管理台数(台)	1,972	7,796	1,779	2,764	1,520	15,831
2024年 4月末	物件数(件)	9	50	13	16	14	102
	管理台数(台)	1,869	7,770	1,779	2,931	1,559	15,908
前年 同期比	物件数	90.0%	108.7%	108.3%	106.7%	100.0%	105.2%
	管理台数	94.8%	99.7%	100.0%	106.0%	102.6%	100.5%

		タイ	韓国	海外計	総合計
2023年 4月末	物件数(件)	5	4	9	106
	管理台数(台)	2,587	266	2,853	18,684
2024年 4月末	物件数(件)	7	2	9	111
	管理台数(台)	3,467	98	3,565	19,473
前年 同期比	物件数	140.0%	50.0%	100.0%	104.7%
	管理台数	134.0%	36.8%	125.0%	104.2%

【合計】

		東日本	関東	東海	近畿	西日本	国内計
2023年 4月末	物件数(件)	124	683	84	290	134	1,315
	総台数(台)	5,040	21,167	5,248	9,354	4,371	45,180
2024年 4月末	物件数(件)	129	719	86	299	155	1,388
	総台数(台)	4,492	22,526	5,319	9,638	4,934	46,909
前年 同期比	物件数	104.0%	105.3%	102.4%	103.1%	115.7%	105.6%
	総台数	89.1%	106.4%	101.4%	103.0%	112.9%	103.8%

		タイ	韓国	海外計	総合計
2023年 4月末	物件数(件)	50	17	67	1,382
	総台数(台)	12,021	3,901	15,922	61,102
2024年 4月末	物件数(件)	58	21	79	1,467
	総台数(台)	12,891	3,667	16,558	63,467
前年 同期比	物件数	116.0%	123.5%	117.9%	106.2%
	総台数	107.2%	94.0%	104.0%	103.9%

- ※『借上台数』・・・当社グループと駐車場オーナーとの間で賃貸借契約を締結している台数
『貸付台数』・・・月極専用直営物件において、当社グループと駐車場ユーザーとの間で賃貸借契約を締結している台数
『管理台数』・・・時間貸しマネジメント物件の総収容台数
『契約率』・・・月極専用直営物件において『貸付台数』を『借上台数』で除した比率
『総台数』・・・『借上台数』+『管理台数』

《駐車場付マンスリーレンタカー設置台数》

(単位：台)

	2023年 4月末	2024年 4月末	前年同期比
駐車場付マンスリーレンタカー設置台数	459	424	92.4%

《グリーンシーズン》

■索道を稼働した施設における来場者数

(単位：千人)

施設名	2023年 4月末累計	2024年 4月末累計	前年同期比
HAKUBA VALLEY国際山岳リゾート白馬八方尾根	62	68	109.7%
HAKUBA VALLEY白馬岩岳マウンテンリゾート	130	151	116.0%
HAKUBA VALLEYつがいけマウンテンリゾート	46	52	114.3%
竜王マウンテンパーク	39	53	134.7%
計	278	325	117.0%

■その他の施設における来場者数

(単位：千人)

会社名	2023年 4月末累計	2024年 4月末累計	前年同期比
㈱鹿島槍	1	2	184.1%
川場リゾート㈱	74	76	103.1%
めいほう高原開発㈱	22	18	85.0%
計	97	97	99.9%

- (注) 1. 索道を稼働した施設における来場者数については、主にリフト券の販売数に基づいて記載しております。索道とは、ゴンドラ、ロープウェイ及びリフトを指します。
2. その他の施設における来場者数は以下の合計となります。
- ㈱鹿島槍：鹿島槍スポーツヴィレッジの来場者数
- 川場リゾート㈱：スケートボードパーク施設の来場者数、HANETTAの来場者数及びおにぎり店の来場者数（レジ通過者数）
- めいほう高原開発㈱：キャンプ施設、ASOBOTの来場者数及びおにぎり店の来場者数（レジ通過者数）

《ウィンターシーズン》

■スキー場別来場者数

(単位：千人)

施設名	2023年 4月末累計	2024年 4月末累計	前年同期比
HAKUBA VALLEY白馬八方尾根スキー場	313	351	112.3%
HAKUBA VALLEY白馬岩岳スノーフィールド	121	147	122.2%
HAKUBA VALLEYつがいけマウンテンリゾート	271	342	126.5%
HAKUBA VALLEY鹿島槍スキー場ファミリーパーク	50	46	92.7%
竜王スキーパーク	209	221	105.6%
川場スキー場	148	153	103.6%
めいほうスキー場	186	197	105.6%
菅平高原スノーリゾート	211	229	108.3%
計	1,512	1,691	111.8%

■その他の施設における来場者数

(単位：千人)

会社名	2023年 4月末累計	2024年 4月末累計	前年同期比
川場リゾート(株)	34	46	133.8%
めいほう高原開発(株)	3	2	72.6%
計	38	49	128.9%

- (注) 1. スキー場の来場者数については、主にリフト券の販売数に基づいて記載しております。
2. 菅平高原スノーリゾートの来場者数については、「TARO AREA・DAVOS AREA」の来場者数を表示しております。
3. その他の施設における来場者数は以下の合計となります。
川場リゾート(株)：おにぎり店の来場者数(レジ通過者数)
めいほう高原開発(株)：おにぎり店の来場者数(レジ通過者数)

《テーマパーク事業の来場者数》

(単位：千人)

施設名	2023年 4月末累計	2024年 4月末累計	前年同期比
那須ハイランドパーク	423	397	94.0%
NOZARU	23	21	91.4%
那須高原りんどう湖ファミリー牧場	189	188	99.6%
計	636	608	95.6%

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比べて11,150百万円増加し、40,157百万円となりました。主な要因は、1,662百万円の配当を実施したものの、8,650百万円の新規借り入れにより現金及び預金が5,806百万円増加、さらに別荘の新築等により建物及び構築物が1,283百万円増加、株式の購入及び時価評価金額の上昇により投資有価証券が2,125百万円増加したこと等によるものです。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比べて8,136百万円増加し、23,192百万円となりました。主な要因は、新規借り入れにより長期借入金が7,966百万円、社債の発行により100百万円増加したこと等によるものです。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比べて3,013百万円増加し、16,964百万円となりました。主な要因は、1,662百万円の配当を実施したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益を3,495百万円計上したこと等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年9月8日の決算短信で公表いたしました2024年7月期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,050,709	16,857,262
売掛金	1,151,757	1,284,652
棚卸資産	658,428	1,219,041
その他	1,635,689	1,169,753
貸倒引当金	△14,510	△14,434
流動資産合計	14,482,074	20,516,275
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,198,149	7,481,485
土地	1,746,528	1,827,473
その他（純額）	3,981,229	5,570,865
有形固定資産合計	11,925,907	14,879,824
無形固定資産		
のれん	21,116	15,822
その他	140,843	135,603
無形固定資産合計	161,959	151,425
投資その他の資産		
投資有価証券	771,615	2,896,892
その他	1,759,556	1,712,943
貸倒引当金	△94,000	—
投資その他の資産合計	2,437,171	4,609,836
固定資産合計	14,525,039	19,641,086
資産合計	29,007,113	40,157,361
負債の部		
流動負債		
買掛金	357,125	352,899
短期借入金	378,000	470,000
1年内返済予定の長期借入金	383,678	531,582
未払法人税等	966,612	660,743
その他	2,803,136	2,925,141
流動負債合計	4,888,552	4,940,366
固定負債		
社債	500,000	600,000
長期借入金	6,496,560	14,463,290
退職給付に係る負債	28,618	39,125
企業結合に係る特定勘定	1,611,609	1,415,267
その他	1,530,795	1,734,818
固定負債合計	10,167,583	18,252,501
負債合計	15,056,136	23,192,868

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年4月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	699,221	699,221
資本剰余金	812,761	889,223
利益剰余金	14,600,896	16,434,188
自己株式	△4,971,983	△4,903,543
株主資本合計	11,140,895	13,119,089
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	140,735	531,580
為替換算調整勘定	108,840	147,146
その他の包括利益累計額合計	249,576	678,727
新株予約権	373,074	377,893
非支配株主持分	2,187,431	2,788,783
純資産合計	13,950,977	16,964,493
負債純資産合計	29,007,113	40,157,361

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年4月30日)
売上高	25,080,448	25,098,804
売上原価	15,443,862	15,175,216
売上総利益	9,636,586	9,923,588
販売費及び一般管理費	4,293,925	4,544,836
営業利益	5,342,661	5,378,751
営業外収益		
受取利息	3,713	5,651
受取配当金	1,870	1,516
助成金収入	44,313	9,175
為替差益	—	31,777
投資有価証券売却益	2,948	91,716
その他	29,324	30,962
営業外収益合計	82,170	170,800
営業外費用		
支払利息	37,427	85,565
為替差損	5,103	—
その他	34,947	21,560
営業外費用合計	77,477	107,126
経常利益	5,347,354	5,442,425
特別利益		
固定資産売却益	26,365	73,304
新株予約権戻入益	47,600	20,721
貸倒引当金戻入額	—	14,196
特別利益合計	73,965	108,222
特別損失		
固定資産除却損	46,335	48,550
事務所原状回復費	20,000	—
事務所移転費用	3,859	—
特別損失合計	70,195	48,550
税金等調整前四半期純利益	5,351,124	5,502,096
法人税、住民税及び事業税	1,322,398	1,395,045
法人税等調整額	△2,149	△30,989
法人税等合計	1,320,248	1,364,056
四半期純利益	4,030,876	4,138,040
非支配株主に帰属する四半期純利益	477,419	642,840
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,553,457	3,495,200

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年4月30日)
四半期純利益	4,030,876	4,138,040
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	79,342	390,845
為替換算調整勘定	54,798	42,673
その他の包括利益合計	134,140	433,519
四半期包括利益	4,165,016	4,571,559
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,681,917	3,924,351
非支配株主に係る四半期包括利益	483,099	647,207

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年8月1日 至 2023年4月30日)

報告セグメントごとの売上高及びセグメント利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			
	駐車場事業	スキー場事業	テーマパーク事業	計
売上高				
外部顧客への売上高	11,537,736	6,048,314	4,852,872	22,438,923
セグメント間の 内部売上高又は振替高	61,909	62,245	4,974	129,129
計	11,599,645	6,110,560	4,857,847	22,568,052
セグメント利益	2,856,681	1,450,109	888,444	5,195,235

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額
売上高				
外部顧客への売上高	2,641,524	25,080,448	—	25,080,448
セグメント間の 内部売上高又は振替高	7,011	136,140	△136,140	—
計	2,648,536	25,216,589	△136,140	25,080,448
セグメント利益	508,401	5,703,636	△360,974	5,342,661

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、教育事業、ヘルスケア事業及び不動産事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△360,974千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であり、全社費用は、主に財務経理等の管理部門に係る費用及び各報告セグメント共通の費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 「その他」区分には、保有不動産売却による売上2,183,240千円を含んでおります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2023年8月1日 至 2024年4月30日)

報告セグメントごとの売上高及びセグメント利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			
	駐車場事業	スキー場事業	テーマパーク事業	計
売上高				
外部顧客への売上高	12,662,915	7,238,799	4,656,826	24,558,540
セグメント間の 内部売上高又は振替高	41,115	76,081	12,613	129,810
計	12,704,030	7,314,880	4,669,440	24,688,351
セグメント利益	3,048,905	1,987,900	667,195	5,704,001

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額
売上高				
外部顧客への売上高	540,263	25,098,804	—	25,098,804
セグメント間の 内部売上高又は振替高	17,861	147,672	△147,672	—
計	558,125	25,246,476	△147,672	25,098,804
セグメント利益	144,320	5,848,321	△469,569	5,378,751

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、教育事業、ヘルスケア事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△469,569千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であります。全社費用は、主に財務経理等の管理部門に係る費用及び各報告セグメント共通の費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。